



第20回日本肝臓学会大会(JDDW2016)

山崎 慎太郎

日本大学医学部消化器外科助教

高山 忠利

日本大学医学部消化器外科教授

はじめに

第20回日本肝臓学会大会が神戸(2016年11月3, 4日)で開催されました。本会はJDDW2016を構成する5学会の1学会として、より横断的・網羅的に各分野の先生方が一堂に会して最近の知見を討議することを目的としています。

過去最多の参加者数である2万4千人を超す先生方をお迎えし、無事盛況のうちに終了することができました。個人的には、準備委員長としてプログラムの編成にかかわれたことを深謝申し上げます。また、APDW(Asia Pacific Digestive Week)と共催ということもあり、国際色豊かな話題と討議が行われました。

本会の概要：肝癌治療と抗ウイルス薬のトピックス

肝臓学会のテーマとして「肝炎・肝癌撲滅への予兆」がありました。これはC型ウイルス性肝炎(HCV)に対する新規経口抗ウイルス薬(direct acting antiviral drugs : DAAs)の誕生による治療プロトコルの変化に代表され、会場でもDAAs関連の演題では立ち見が出て、ランチョンセミナーも早期に売り切れるなど、注目度の高さがうかがい知れました。高いウイルス排除率と低い有害事象率により、HCVに関しては撲滅への一歩が踏み出されたといえるでしょう。一方、B型ウイルス性肝炎(HBV)のセッションではウイルス沈静化後の問題が指摘されました。第4世代といわれる核酸アナログ製剤の話題では、耐性変異の発現の低さと、長期間服用の際に問題となっていた副作用発現率の低下が報告されまし



写真1 会場の神戸ポートピアホテル

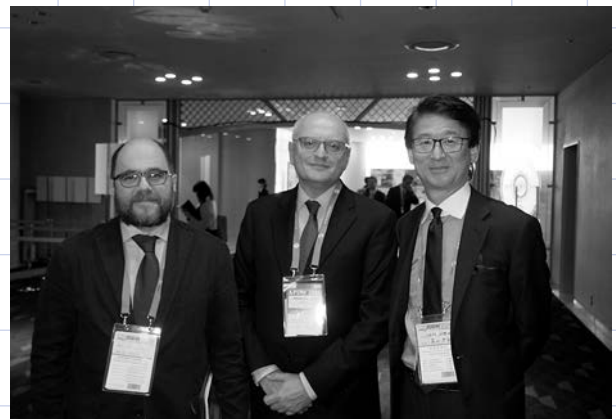


写真2 招待講演演者のMazzaferro先生(中), Torzilli先生(左), 今大会会長の高山忠利先生(右)